



1. 西側全景
2. 東側俯瞰
3. 体育館と奥の大型遊戯場

シエルターインクルーシブプレイス コパル 概要

- 所在地 山形県山形市大字片谷地580-1
- 建築主 山形市
- 設計者 (株)オープラスエイチ一級建築士事務所
- 施工者 (株)高木、(株)シエルター
- 竣工日 2022年3月24日

- 敷地面積 22,295㎡
- 建築面積 3,334㎡
- 延床面積 3,175㎡

- 階数 地上2階
- 構造 鉄筋コンクリート造、鉄骨造、一部木造



詳細や他の写真などは
左記の二次元コードから
Webページにアクセスしてご覧ください。

《日建連表彰2023 第64回BCS賞受賞作品》 WITH HARAJUKU / Entō / 大阪梅田ツインタワーズ・サウス、及び周辺公共施設整備 / 大阪大学箕面キャンパス 外国学研究講義棟 / 京都市美術館(京都市京セラ美術館) / シエルターインクルーシブプレイス コパル / 渋谷 パルコ・ヒューリックビル / 清水建設北陸支店新社屋 / 新宮市文化複合施設(丹鶴ホール) / 那覇文化芸術劇場 なはーと / 日本女子大学目白キャンパス再整備 / Port Plus / 丸紅ビル / ミチノテラス豊洲 / 早稲田大学本庄高等学院体育館



日建連表彰2023



第64回BCS賞

シエルターインクルーシブプレイス コパル

選定理由

【選考委員】
山内弘隆・宮崎 浩・大西正修

山形市南部児童遊戯施設、シエルターインクルーシブプレイス コパルは、建築物としての完成度、機能性、そして合目的性を高次元でバランスさせている。「インクルーシブ」とは、性別や年齢、人種・国籍の違い、障がいの有無など、異なる背景や特性を持つ人々が互いを認め合い、ともに生きることである。「コパル」は、山形市の子どもたちが雨や雪の日にも遊べる場を提供するとともに、施設・設備面でも運営面でもインクルーシブを実現している。

市の中心部から県道山形上山線を南下するとコパルが現れる。ランドスケープと一体となることが設計コンセプトとされるが、確かに、雲のようにたなびく屋根は、周辺の田園風景のなかで蔵王連峰と一体となっている。そして、決して派手ではない

よるライフサイクルコストの低減を目指すとしても、事業内容が真に公共側あるいは社会が求めるものを実現できるかどうか課題である。コパルのPFIプロセスはこの限界を超えた。「創造会議」と呼ばれるワークショップを通じて、「インクルーシブな施設にふさわしい空間」を実現した。創造会議は、設計面・運営面について、専門的及び利用者の視点での意見を吸収し、事業に反映させる仕組みであり、施設のあり方、運営について詳細な議論がなされフィードバックされた。

が、子どもたちをわくわくさせ、施設内に引き込む魅力を備えている。館内は子どもを高揚させる仕掛けにあふれている。ひとつながりの空間のなかに様々な「居場所」が提供され、そのなかで遊びが誘発され、五感が刺激される。車椅子で登って行けるスロープはほかの子も登りたくなる。共生やノーマライゼーションという言葉にふさわしいアイデアにあふれているのである。

強調されるべきは、この施設がPFIという制約の大きい事業手法で実現されたことだ。PFIは、民間の資金やノウハウを活用することによって公共施設の整備を進めるもので、国、地方両面で数多くの整備が実現した。ただ、PFIは効率性を重んじており、VFM(Value for Money)と呼ばれる公側の費用節減がその尺度となる。設計から施工、維持管理、運営に至る一体型の事業方式、複数年契約に

施設のあり方についてワークショップが開催されるケースは珍しくない。コパルの場合、PFIでそれが有効に機能した点が重要である。創造会議は二〇二〇年一月から二〇二二年十二月まで一〇回開催された。これは、二〇一九年に事業者が選定された後、基本設計・実施設計、施工が行われた時期である。走りながらの会議ではあったが、発注者側の意図と事業者側の意思の擦り合わせが実現し、全国的にも注目される施設の整備・運営体制が完成したものと考える。

BCS賞

BCS賞は、建築の事業企画・計画・設計、施工、環境とともに、供用開始後1年以上にわたる建築物の運用・維持管理等を含めた総合評価に基づいて選考し、建築主・設計者・施工者の三者を表彰する建築賞です。この賞は、1960年にはじまり2023年で64回を数えました。